

# しばたまち交流ひろば「ゆる・ぷら」運営事業

## 施策のポイント

イオン SC が町内に設置、運営しているイオンタウン柴田ショッピングセンターの空きテナントの場所を無償で提供いただき、町民の皆様が気軽にくつろげる交流サロン、簡単な打合せなどに利用できる多目的スペース、様々な情報が得られる情報コーナーなどを備えた施設として活用できる場の提供を行う。

### 自治体情報

宮城県柴田町

人口 / 38,491人

標準財政規模 / 7,528,302千円

担当課 まちづくり政策課

電話番号 代表 0224-54-2111 内線 273

実施主体 柴田町

関連ホームページ <http://www.town.shibata.miyagi.jp/>

事業期間 平成 21 年度から平成 22 年度まで

参考とした施策

関係施策分類

## 施策の概要

### 1 取組に至る背景・目的

イオン SC より、イオンタウン柴田ショッピングセンターの空きテナントをまちづくりの場として活用できないかという提案をうけ、平成 22 年 4 月より施行される住民自治によるまちづくり基本条例に定める、(仮称)まちづくり推進センター設置に向けた試験事業として平成 22 年 2 月 21 日にオープンした。

住民が気軽に立ち寄り交流できる場を提供し、賑わいの中からまちづくりに主体的に関わる住民の輪を広げていくことが目的である。



### 2 取り組みの具体的内容

交流サロンスペース、多目的スペース、ギャラリースペース、作業スペース、情報コーナーを設置する。交流サロンスペースでは住民が気軽に談話でき、ギャラリースペースでは町民の創作物等の展示を実施する。情報コーナーでは住民と行政との情報共有を目的に、さまざまな行政情報等を発信する。多目的スペースでは各種講座の開催を町民が主催したり、町がまちづくりの人材を育成するための講座を開催する。また、賑わいの創出として、交流ひろば主催での夏祭り等を企業や住民との協働で開催し、町民相互の親睦を図る。

これらの取組については、交流ひろばがニュースレター (A 4 サイズ 1 枚両面程度) を毎月 1 回発行し全戸回覧することで、住民の利用を促していく。

### 3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

年間入込客数 (利用者数) 10,000 人

### 4 現在までの実績・成果

平成 22 年 2 月 21 日～4 月 18 日まで 2,379 人

催事 12 団体 (1 団体 1 週間～2 週間)

## 5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

民間施設における多様な運用を可能にし、団体等の主体性を活かしたまちづくり（公益的）活動の活性化を図るため「町が民間施設を借り受け、町が団体等へまちづくりの場（活動拠点）を提供する」に当たって、利用団体等が意欲的、主体的に行う意思があるか、町、利用団体等、住民の3者がメリットを創出できるか。

設置にあたって、町内の各種活動団体へのアンケート調査を実施し、潜在的な需要等の調査を行った。

## 6 今後の展開と課題

現在は、イオンSCより無償貸与により運営しているが、契約期間が平成22年度末となっていることから、それ以降の取扱いが不確定であり、継続して開設できるようにイオンSCと協議を行う。また（仮称）まちづくり推進センターの設置にあたり、その機能や方向性について検討していく。



### 予算関連データ

総額 ①～⑤の計		財源内訳（財源区分：①～⑤）				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
4,851千円		0千円	532千円			4,319千円
①～④の名称、 所管など	名称		市町村振興総合補助金			/
	所管		地域振興課			
	金額		1,065千円			
	補助率		1/2			

提供可能資料：しばたまち交流ひろば「ゆる・ぶら」事業概要欄